

## 令和 年度 福島大学基金研究推進事業助成による成果報告書

2023 年 10 月 16 日

学 長 殿

所属部局・職名 福島大学大学院 人間発達文化研究科

申請者名 伊藤 朱音

助成の区分 (該当するものに○)	○学会参加助成・学術出版助成・学術論文掲載料等助成
事業名	第 62 回 大学美術教育学会 香川大会
成果の概要	<p>大学院での自身の研究テーマである、ホスピタルアートとデザインの在り方と題して、これまでの研究内容・成果を発表してきた。ホスピタルアートがもたらす効果、病院にアートが必要とされる理由を、実際にホスピタルアートを取り入れている病院の導入例を基に発表し、多数の美術教育に携わっている先生方、また同じく美術を学んでいる大学院生に伝えることができた。実際に美術が私たちの生活にどう寄り添うのか、どう作用するのかを考えた時、どのようにすればアートは人の生活に役立つものとなるのか分からないという人は多いと考えられる。ホスピタルアートはアートの重要性、アートが人の心を動かすものであるということ、美術に深く携わってこなかった人にも共感してもらえる大きな例えにもなるという自身の考えを多くの人に共感してもらえた。</p> <p>質疑応答では、一度病院内の壁などに直接絵を描いてしまうと、その後他の色味や絵のタッチに変えたいと思ったときに修正が難しいのではないかという懸念点が挙げられた。そういったことからデジタルでのホスピタルアートも導入が増えているということも伝えた。デジタルで投影することによってその日の気分や季節のイメージなどに応じて、アートを取り入れることが可能になるというメリットに称賛の声が上がった。また、自身の考えでホスピタルアートは不安な気持ちなどを拭うだけのものではなく、人と人を繋ぐものであるという意見にも多くの共感の声を頂き、ホスピタルアートのこれからの可能性を感じたことに加え、自身の研究内容が有意義なものであったことを再確認できた。</p>